

身近なワンヘルスの取組

動物に触れる前と後は手を洗おう！

県民への伝え方

「見て」、「体験」して、「知る」につなげる
県内各所 (※) でチラシの配布・回覧、
ポスターの掲示、SNSを活用する
(※) 動物ふれあい施設、病院、学校、公民館など

期待される効果

- ・ 人獣共通の病気を知るきっかけとなる
- ・ 人も動物も病気をうつしあわない

身近なワンヘルスの取組

「ワンヘルヒン」を食べよう (ワンヘルス認証商品)

県民への伝え方

現在500品目以上あるワンヘルス認証商品は、減農薬・省エネ・地産地消等により身体にやさしく、動物にも環境にもやさしいことを日常のスーパーなどでPRする。

期待される効果

ワンヘルスを日常の中で理解し、誰でも簡単にワンヘルスに貢献できる。

身近なワンヘルスの取組

「てまえどり」を実践しよう！

県民への伝え方

てまえどりポップ等の現在使われている資材に「ワンヘルスマーク」と「短いフレーズ」（すぐ食べるなら、てまえどり。ワンヘルス界隈からのお願いです！など）を加える。

期待される効果

「てまえどり」は食品ロス削減に効果的な取組であり、それがワンヘルスの実践に繋がっていると理解してもらえらること。

身近なワンヘルスの取組

地元の食材を食べよう！

県民への伝え方

『地元のごはん、あなたを救う。地球を救う。』
をキャッチコピーにポスターを作り、スーパーや
電車のなかに掲示する。
地産地消の実践は自分の健康だけではなく、
地球へも還元される、ワンヘルスに繋がる行動
であることをPRする。

期待される効果

新鮮な地元の食材を摂取することで、健康促進される。
さらに、短い輸送距離で済むことにより、CO₂削減
につながる。

身近なワンヘルスの取組

ペットボトルキャップを回収する

県民への伝え方

「一つのキャップ、あなたの健康ー福岡ワンヘルス」
というキャッチコピーの策定⇒PRで使用

- ・服部県知事、一肌脱ぐ。
- ・企業との連携（商品へのラベリング）
- ・ワンヘルスアプリ

期待される効果

ワンヘルス（人、環境、動物とのつながり）の理解
県民のごみ処理の理解と再利用意識の向上
動物のごみの誤飲防止、環境汚染防止、人の生活への貢献

身近なワンヘルスの取組

ゴミの分別を徹底しよう

県民への伝え方

各自治体で配布しているごみの分別表に
「ワンヘルスの説明・キャッチフレーズ」
を共通テンプレートで入れる

期待される効果

- ①意識変容、
- ②即実装・広域展開、
- ③子どもたちへの教育効果